

# 南国病院広報誌

第26号 2015年10月31日発行



# つくし



日本医療機能評価機構認定病院  
平成23年8月5日  
審査体制区分2  
Ver.6.0

■発行元■  
南州市大涌甲 1479-3  
医療法人つくし会 南国病院  
Tel (代) 088-864-3137  
<http://www.nankoku-hp.or.jp>

## 南国病院を取り巻く状況

### 全日病学会 in 北海道 & 機能評価受審支援セミナーに参加して

#### ロイトン札幌・ホテル札幌芸文館

#### H27.9.11~13



常務理事 清遠 文博

国および地域の医療政策、全国各地の病院の取組みの状況を調査するため、また来年受審する機能評価の準備のため、9月に札幌で開催された全日病の学会および受審支援セミナーに、中澤院長と佐光看護部長と一緒に参加してきました。



国は、団塊の世代が75歳を迎える2025年を目標に、各地域の人口動態も加味し、最適に人的資源と財源を配分し、継続的な医療提供を維持できる体制を示そうとしています。現在各都道府県は地域医療構想を本格的に策定中であり、2018年には医療計画の策定、地域包括ケアシステムの構築を進める見込みです。長期的には在宅医療機関を充実させてゆく流れは確実と思われ、地域の病院間で病床機能の分化・連携が進むと思われます。将来的に複数の病院間の連携、医師の再配置等を踏まえた地域医療連携推進法人(仮称)設立の話もありました。各民間病院への影響が大きくなると思われます。各地域で地域医療構想をまとめる動きは現実のものとなりつつあり、本院も絶えず行政、医師会、各病院の動きを注視して、本院の目指す方向と全体の動きとの整合性をとりながら、事業継続してゆかなければいけないと実感しました。



各会場に分かれた演題発表では、病院経営、事務管理の領域のテーマを主に聴講しました。購入品や残業時間の削減等によるコスト削減の話、職員満足度を向上させるための研修制度やレク活動、自主目標を取り込んだ考課制度等の話がありました。本院でも改善の意識の高い職員もおり成果を上げている事例もあります。多くの職員の改善の意識が高まるように、そのような事例を部署

間で共有し応用展開できるようにし、各部署で改善が進み、集積で大きな効果に至るようにしたいと思います。

機能評価受審支援セミナーでは、評価機構が医療の質の向上という原点に返り、評価項目数を絞り、評価方法を見直した話がありました。当院では実際に行われているケアプロセスは一定の水準にあると思っています。来年の受審を良い機会ととらえ、実際にやっていることを振り返り整理する、そして整理したことが各職員に浸透するということが大切だと思います。

今回は私も出張の機会を得、大きな刺激となりました。当院は研修・学会等への参加による自己研鑽の重要性を認識しており、これからも予算の許す範囲でできるだけ多くの職員が機会を持てるようにしたいと思います。





学術研修委員会委員長 精神科部長 玉元 徹

平成27年8月3日に、笑いヨガと認知症予防スリーAゲームというタイトルで、土佐の国笑いと癒やし研究所代表の及川勝栄先生にご講演及び講習をして頂きました。非常にわかりやすく、何より腹の底から喜べて、リフレッシュした感動が味わえた素晴らしい会でした。老若男女楽しめて、いろいろな分野で応用できる非常に重要な意義深い講習でしたので、今後も作業療法士などの職員が取り入れて、当院で続けてやっていただきたいと思いました。及川先生がおっしゃったように、笑いは昔から、NK細胞を活性化させて、癌を防ぐとか癌をなくすなどと言われるほどクローズアップされてきた経緯があります。今後も研究が発展するものと期待される分野ですので、私個人的にも感動と共に、わくわくする感じでいっぱいでした。及川先生ありがとうございました。

平成27年8月27日には、褥瘡対策研修関連の講習として、「褥瘡予防のためのポジショニング」というタイトルで、理学療法士の福島寿道先生と高橋文江先生、作業療法士の服部和代先生に講習を行っていただきました。今までにないアプローチの講習で、実践的でしたので、非常に重要で役に立つ情報が満載でした。改めてポジショニングがとても重要だという認識ができて良かったと思います。また、こういう講習は何度受けても、今後老老介護を行う我々にとっては、非常にありがたい情報ですので、是非毎年お願いしたいと思いました。3人の先生方、本当にありがとうございました。

